

横浜市感染症発生動向調査報告（令和7年4月）

《今月のトピックス》

- 百日咳の報告が大変多くなっています。
- 麻しんの報告がみられます。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心に幅広い年齢層で患者が多く発生しており、引き続き注意が必要です。
- 感染性胃腸炎の報告数は多い状態が続いています。
- 伝染性紅斑の報告が再び増加しています。

◇ 全数把握の対象 <2025年3月24日～4月20日に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	4件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
A型肝炎	2件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	14件
レジオネラ症	1件	水痘(入院例に限る)	2件
アメーバ赤痢	2件	梅毒	30件
ウイルス性肝炎	1件	百日咳	76件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	4件	麻しん	1件

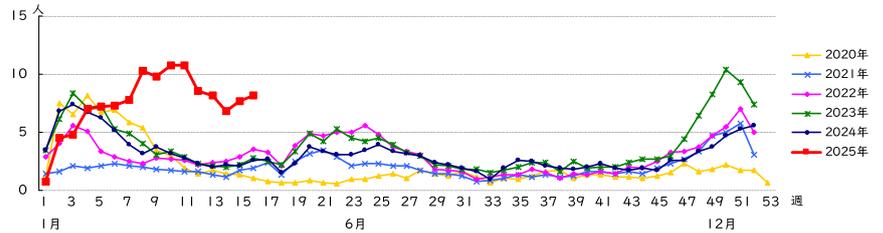
1. **腸管出血性大腸菌感染症**: 40歳代～70歳代で、O血清群はいずれも不明です。感染経路等も不明です。
2. **A型肝炎**: 40歳代及び70歳代(ワクチン接種歴無1件、不明1件)で、経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
3. **デング熱**: 20歳代で、デング出血熱です。蚊からの感染(インドネシア)と推定されています。
4. **レジオネラ症**: 90歳代で、肺炎型です。感染経路等は不明です。
5. **アメーバ赤痢**: 50歳代及び60歳代で、いずれも腸管アメーバ症です。感染経路は、性的接触と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
6. **ウイルス性肝炎**: 50歳代で、B型肝炎(ワクチン接種歴無)です。感染経路は性的接触と推定されています。
7. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**: 50歳代～80歳代で、医療器具関連感染と推定される報告が1件、院内感染と推定される報告が1件、以前からの保菌と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
8. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: 40歳代及び50歳代で、血清型はA群が1件、B群が1件です。創傷感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
9. **侵襲性インフルエンザ菌感染症**: 30歳代(ワクチン接種歴無)で、感染経路等不明です。
10. **侵襲性肺炎球菌感染症**: 10歳未満～90歳代(ワクチン接種歴4回1件、1回1件、無7件、不明5件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が5件、接触感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定される報告が1件、感染経路等不明の方向が7件です。
11. **水痘(入院例に限る)**: 10歳代及び80歳代(ワクチン接種歴2回1件、1回1件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
12. **梅毒**: 20歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期11件、早期顕症梅毒Ⅱ期10件、晩期顕症梅毒1件、無症状病原体保有者8件です。性的接触による感染と推定される報告が29件(異性間20件、詳細不明9件)、感染経路等不明が1件です。
13. **百日咳**: 10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴5回2件、4回47件、3回2件、無1件、不明24件)で、家族内感染と推定される報告が21件、周囲の流行と推定される報告が6件、感染経路等不明の報告が49件です。
14. **麻しん**: 20歳代(ワクチン接種歴2回)で、海外(オランダまたはノルウェー)での飛沫・飛沫核感染と推定されています。

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
2025年第13週	3月24日～3月30日
第14週	3月31日～4月6日
第15週	4月7日～4月13日
第16週	4月14日～4月20日

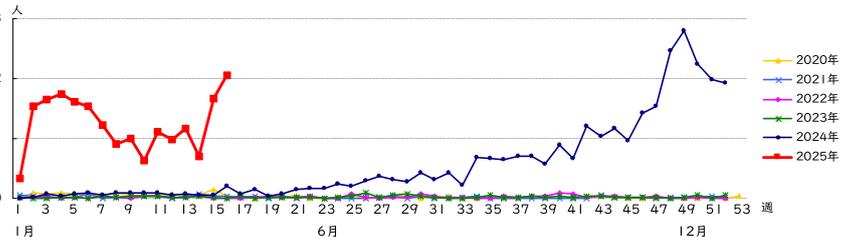
1 感染性胃腸炎

2025年第2週(1月6日～1月12日)以降増加し、第10週(3月3日～3月9日)にピークを迎えました。以降減少傾向に転じたものの、例年の同時期よりも高い値で推移しています。第16週は8.41です。



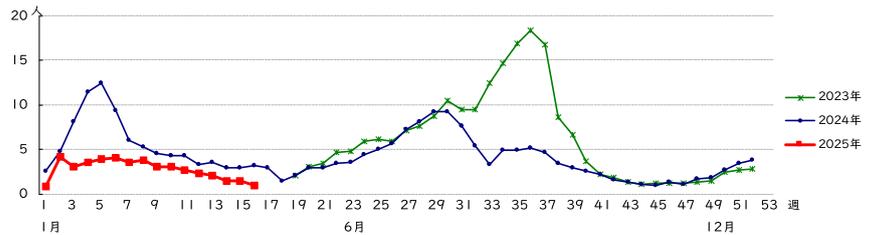
2 伝染性紅斑

2024年第49週(12月2日～12月9日)にピークを迎えました。2025年第5週以降減少傾向に転じていましたが、第15週以降再び増加しています。第16週は2.04です。



3 新型コロナウイルス感染症

2025年第3週(1月13日～1月19日)以降、概ね横ばいから緩やかな減少傾向に転じています。第16週は0.91です。



4 性感染症(2025年3月)

性器クラミジア感染症	男性:26件	女性:19件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:9件	女性:4件
尖圭コンジローマ	男性:16件	女性:0件	淋菌感染症	男性:11件	女性:3件

5 基幹定点週報

	第13週	第14週	第15週	第16週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.33	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.33	0.67	0.00	1.33

6 基幹定点月報(2025年3月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科・ARI(急性呼吸器感染症)定点:5か所、ARI定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計14か所を設定しています。

検体採取は、小児科・ARI定点とARI定点で毎週実施しています。

眼科と基幹(病院)定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

2025年第13週～第16週に病原体定点から搬入された検体は、ARI定点70件、小児科定点13件でした。

5月7日現在、表に示した各種ウイルスの分離13株と遺伝子32件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2025年第13週～第16週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	インフル エンザ	上気道 炎	下気道 炎	伝 染 性 紅 斑
インフルエンザウイルス AH1pdm09	3 -			
インフルエンザウイルス AH3	3 -			
インフルエンザウイルス B型 (ビクトリア系統)	6 -			
新型コロナウイルス (SARS-CoV-2)		1 8	- 1	
ヒトコロナウイルス OC43		- 1		
ヒトコロナウイルス 229型		- 1		
RS ウイルス		- 2	- 2	
ヒトメタニューモウイルス			- 1	
パラインフルエンザウイルス 3型		- 1	- 1	
アデノウイルス 1型		- 2		
アデノウイルス 2型		- 1		
ライノウイルス		- 7	- 2	
ボカ ウイルス		- 1		
B19 ウイルス				- 1
合 計	12 -	1 24	- 7	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

4月期(2025年第13週～第16週)の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症1件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症5件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3件、侵襲性肺炎球菌感染症1件、侵襲性インフルエンザ菌感染症1件でした。

病原体定点医療機関からの検査依頼は「小児科定点」から溶血性レンサ球菌咽頭炎3件でした。

また、4月7日から開始された急性呼吸器感染症サーベイランスを実施する「ARI定点」からの検査依頼は56件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2025年第13週～第16週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等
保健所	腸管出血性大腸菌感染症	1	O150:H- VT2 (1)
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	5	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (4) <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	A群溶血性レンサ球菌 T1型 (2) B群溶血性レンサ球菌 II型 (1)
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (1)
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	<i>Haemophilus influenzae</i> 型別不能 (1)

小児科サーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等
------------	----	-----	-----	---------

小児科定点	咽頭ぬぐい液	溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	A群溶血性レンサ球菌 T4 (3)
-------	--------	-------------	---	-------------------

ARIサーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等
------------	----	-----	-----	---------

ARI定点	鼻咽頭ぬぐい液 鼻汁 等	ARI	56	百日咳遺伝子 陽性 (1) 肺炎マイコプラズマ遺伝子 陽性 (0)
-------	-----------------	-----	----	--------------------------------------

【 微生物検査研究課 細菌担当 】